# 東京工業大学
# 大学院イノベーションマネジメント研究科

## 技術経営専攻（専門職学位課程：修士）
## イノベーション専攻（博士後期課程）

---

# Tokyo Institute of Technology
# Graduate School of Innovation Management

## Management of Technology Department
## Innovation Department

東京工業大学
Tokyo Institute of Technology

# イノベーションマネジメント研究科の特色

2005年4月に創設された大学院イノベーションマネジメント研究科は、MOT専門職大学院（専門職学位課程：修士）の技術経営専攻と、博士後期課程のイノベーション専攻からなり、「技術を創造し、知的資産として事業化・社会化するイノベーション創出サイクルのマネジメントに秀でた実践的人材と研究者を育成する」ことを目的としています。教育研究分野として、技術経営戦略分野、知的財産マネジメント分野、情報・サービスイノベーション分野、ファイナンス分野の4つの分野を設けています。

先行きが不透明な中で未来を切り拓いていくため、産業・企業にとっては既存ビジネスの再構築や新ビジネスの創造が大きな課題となっており、イノベーション創出のマネジメントである技術経営（MOT）がますます重要になっています。

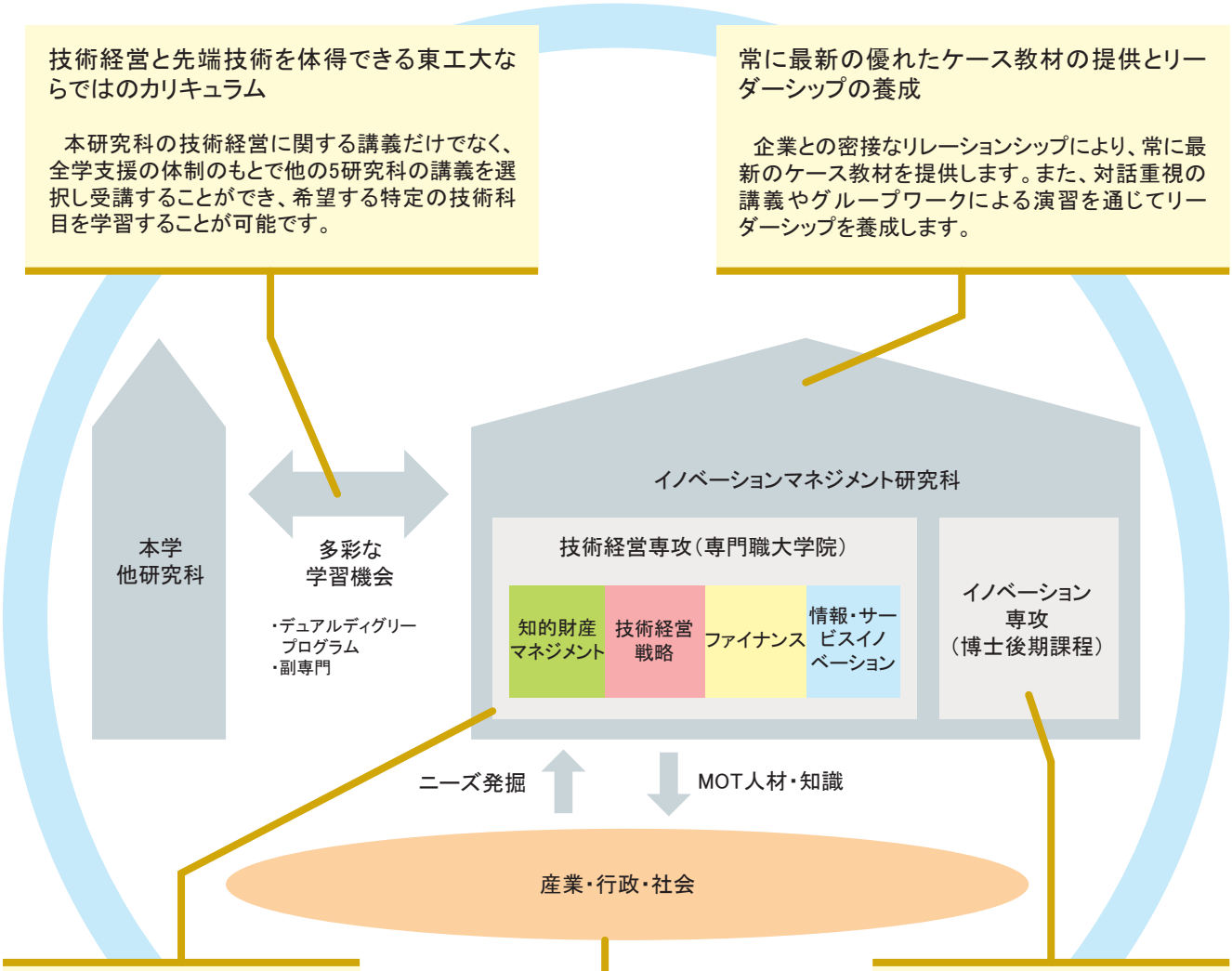
## 東工大MOTの特色

### 技術経営と先端技術を体得できる東工大ならではのカリキュラム

本研究科の技術経営に関する講義だけでなく、全学支援の体制のもとで他の5研究科の講義を選択し受講することができ、希望する特定の技術科目を学習することが可能です。

### 常に最新の優れたケース教材の提供とリーダーシップの養成

企業との密接なリレーションシップにより、常に最新のケース教材を提供します。また、対話重視の講義やグループワークによる演習を通じてリーダーシップを養成します。




### 多彩な教授陣による総合型MOTプログラムの提供と人脈構築

技術経営戦略を中核とし、知的財産マネジメント、ファイナンス、情報・サービスイノベーションの4つの領域において、実務経験も豊富な多彩な教授陣を備えています。また、多彩な業種、バックグラウンドを持つ学生が入学するため、人脈形成にも役立ちます。

### 産官学連携によるMOTプログラムの提供

MOTプログラムの教育目標達成のためには、産業・行政・社会と密接に連携することが不可欠です。このため、産官学連携に豊富な経験と見識を有する教授による企業ニーズの発掘、インターンシップの推進、現役経営者の客員教授としての招請などを行っています。

### MOT初の博士後期課程

将来のMOT教育・研究を担い、MOTをリードする人材を育成するために、実践に基づく学問的な体系化や理論研究を行うイノベーション専攻(博士後期課程)を用意しています。

# イノベーションマネジメント研究科のポリシー

## 技術経営専攻の教育ポリシー【専門職学位課程】

### 人材養成の目的

イノベーション創出のリーダーとして科学・技術を活用し、自ら理論を構築して産業や社会の発展に貢献する実務家を養成します。

### 入学者に求める資質と能力

本専攻では、次のような能力と適性をもつ人材を求めます。

- 自らの経験から得た知識や習得した知識を基に、現状を踏まえて論理的かつ客観的に思考し、表現できる
- 豊かで幅広い知識を有し、様々な視点で多面的にものごとを捉えることができる
- 国際的に活動できる語学力を有している
- 向上心にあふれ、社会を主導する意欲を有している

### 修得する能力

イノベーション創出のリーダーとして、科学・技術を活用し産業や社会の発展に貢献する実務家に必要とされる、次のような能力を修得します。

- 科学・技術をもとに新たな価値を生み出す力
- グローバルな視野と高い倫理観から組織のビジョン・戦略を策定する力
- 経営的な課題を解決するための理論を自ら構築する力
- 既存の枠組みにとらわれず、社会を変革する力
- 自らの考えを的確に伝えるコミュニケーション力

## イノベーション専攻の教育ポリシー【博士後期課程】

### 人材養成の目的

科学・技術の分野における最先端の知識と理論に基づき、現代社会の諸問題に対して科学的に解決することができる人材を養成します。

### 入学者に求める資質と能力

本専攻では、入学者に次のような能力と適性をもつ人材を求めます。

- 科学・技術の分野において自立した研究者として活動し社会に貢献するために十分な基礎学力、知識、探究心を有すること
- 英語による研究および情報発信能力を有すること

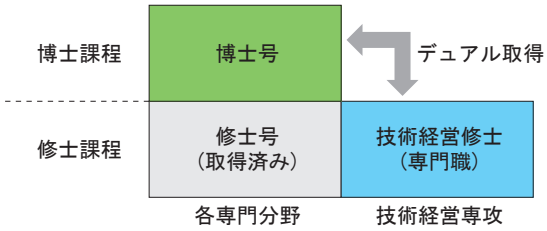
### 修得する能力

- 専門分野において水準が高く独創性があると認められる研究を行い、学位論文を執筆する能力
- 当該分野の専門家としてその分野を深く極め、その知見によって社会に貢献することができる能力

## デュアルディグリープログラム

本学他研究科博士後期課程と技術経営専攻（MOT専門職修士課程）に在籍し、博士学位と技術経営修士（専門職）の同時取得を目指すことができるデュアルディグリープログラムを設けています。

先端技術の研究を行うとともに、より実践的な力を身につけるために技術経営を学ぶことにより、修了後に直ちに実社会で活躍できる人材、すなわち高度専門職業人を育成します。



# 社会人学生に配慮したキャンパスと講義時間

## 技術経営専攻（専門職学位課程：修士）

学位：技術経営修士（専門職）
入学定員：40名
標準修了年限：2年

技術経営専攻（専門職学位課程：修士）では、技術経営戦略を中核として、知的財産マネジメント、ファイナンス、情報・サービスイノベーションを加えた4つの教育研究分野を設定しています。

技術をベースにしたビジネスに携わる社会人を対象として、イノベーション創出サイクルに関わる戦略的かつ創造的なマネジメントをグローバルな視点からリーダーとして遂行する人材を育成します。

知的財産マネジメント及び金融工学の分野における必要科目を充実させ、学生のニーズにより、知的財産マネジメントや金融工学分野の高度な専門家として、企業や自治体や国際機関、産官学連携を主導する組織において即戦力となる人材養成を目指します。

## イノベーション専攻（博士後期課程）

学位：博士（技術経営）、博士（学術）または博士（工学）
入学定員：10名
標準修了年限：3年

イノベーション専攻（博士後期課程）では、技術開発や経営の経験が豊富な社会人を主な対象として、自身が持つ実務経験に基づく学問的な体系化や理論研究を行うことができます。MOTの戦略的な強化を図る我が国の期待に応え、本専攻では、博士号取得者としてMOTの教育研究者や企業・組織体の経営者、MOT責任者を輩出することを目指します。

## 社会人学生に配慮したキャンパス

大岡山キャンパス・田町キャンパスは、それぞれ東急大井町線大岡山駅・JR田町駅から徒歩1分の便利な場所にあります。
大岡山・田町キャンパス間の移動は、約30分です。

大岡山キャンパス

田町キャンパス

## 社会人学生に配慮した講義時間

社会人学生の利便性を考慮し、約半数の科目は都心に位置する田町キャンパスにて開講します。
また、両キャンパスでの開講科目を曜日によって集中させ、学生の移動の負担を最小限とするよう配慮しています。

| 時限 | 時間帯 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1-2 | 9:00-10:30 | | | | | | |
| 3-4 | 10:45-12:15 | | | | | | ○ |
| 5-6 | 13:20-14:50 | | | | | | ○ |
| 7-8 | 15:05-16:35 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 9-10 | 16:50-18:20 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 11-12 | 18:30-20:00 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |

## 研究・学習環境

### 研究室

より良い環境で研究活動に従事することが出来るよう部屋を整備しています。学生は各自自由に利用することができます。

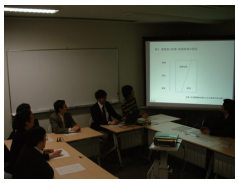
### 机

常駐する学生は専用の机と椅子が、社会人学生はチェスト（引き出し）が使用できるようになっています。デスクライトや電源タップも必要なところに配置され長時間の学習に対応できる環境となっています。

### ICTインフラ

研究科では無線LAN環境が提供され、学習研究のために使用することができます。

### ゼミ風景



研究室ごとに定期的にゼミが行われています。少人数精鋭のゼミでは活発な議論が取り交わされ充実したものになっています。また経験豊かな社会人学生の参加によりインタラクティブな知的刺激の場になっています。

技術経営専攻（専門職学位課程：修士）

# 研究科目群・専門科目群からなる豊富なカリキュラム

## カリキュラム

技術の創造から事業化までイノベーション創出サイクルを効果的に循環させるための戦略・管理・運営をリーダーシップをもって遂行できる人材を育成するために、以下の研究科目群・専門科目群からなる、総合型技術経営のカリキュラムを用意しています。

- 研究科目群（講究科目、研究関連科目）
- 技術経営戦略科目群
- 知的財産科目群
- ファイナンス科目群
- 情報・サービスイノベーション科目群
- 演習・インターンシップ
- 他専門科目

## 開講科目

| | 授業科目 | 基礎 | 発展 |
|---|---|---|---|
| 研究科目群 | 講究科目 | 技術経営講究第一（必修）<br>技術経営講究第二（必修）<br>技術経営講究第三（必修）<br>技術経営講究第四（必修） | |
| | 研究関連科目 | リサーチ・リテラシー演習（1） | Seminar of Advanced MOT Research Ⅰ<br>Seminar of Advanced MOT Research Ⅱ |
| 専門科目群（専攻専門科目・他専門科目） | 技術経営戦略科目群 | Strategic Management of Technology（1）<br>企業戦略とイノベーション（1）<br>経営の歴史と理念（1）<br>イノベーション論（1）<br>R&D戦略（1）<br>イノベーションと産官学連携（1）<br>技術者倫理とリスク管理（1）<br>技術経営情報分析（1）<br>イノベーションのための知識工学（1）<br>経営基礎（1）<br>イノベーション政策概論（1） | 経営者論セミナー（1）<br>企業実践セミナー（1）<br>イノベーションシステム（1）<br>技術組織論（1）<br>コンピテンシ・ディベロプメント（2）<br>食ビジネス創成論（2）<br>食の未来と技術（1）<br>バイオ・ヘルスケア技術と産業システム（2）<br>事業開発・アントレプレナーシップ（2） |
| | 知的財産科目群 | IPマネジメント（1）<br>知的財産権法（1）<br>イノベーションと標準化（1） | R&D戦略と知的財産戦略（1）<br>企業経営における知的財産活動（1）<br>知的財産権侵害実務（2）<br>デジタル時代の知財戦略（1） |
| | ファイナンス科目群 | 金融工学（1）<br>コーポレートファイナンス（1） | 金融リスク・マネジメント（2）<br>ファイナンス応用（2）※平成27年度は開講せず<br>計算ファイナンス（2）<br>金融リスク管理の最先端（2）<br>金融工学特論Ⅰ（2）<br>金融工学特論Ⅱ（2）※平成27年度は開講せず<br>国際投資戦略（2） |
| | 情報・サービスイノベーション科目群 | 組織戦略とICT（1）<br>テレワーク概論（1）<br>サービスイノベーション論（1）<br>サービス科学基礎学（1）<br>コミュニケーションデザイン論（1）<br>サービス・イノベーション概論（1） | セキュリティーマネジメント（2）<br>ネット社会のビジネスモデル（2） |
| | 演習・インターンシップ | 戦略的ディベートの実践（1）<br>技術経営インターンシップⅠ<br>技術経営インターンシップⅡ | 技術経営インターンシップⅢ<br>技術経営インターンシップⅣ |
| | 他専門科目 | ・先端技術とイノベーション（1）<br>・本学の他研究科で開講されている専門科目等を学生個人のニーズに合わせ選択可能<br>（例）大学院教育研究特別コース「医歯工学特別コース」<br>生産管理　ロボット創造学　先端電子材料<br>人間社会と材料　経営工学概論　エネルギー・環境学<br>遺伝子工学 生物　無機固体化学　応用化学特別講義A<br>電気電子基礎学 | |
| 大学院教養・共通科目群 | ・大学院総合科目　・国際コニュニケーション科目　・大学院留学生科目　・大学院広域科目<br>・大学院文明科目　・大学院キャリア科目 | | |

※括弧内は推奨学年

## 修了要件と期間

修了要件は、標準修業年限2年間で40単位以上修得し、かつプロジェクトレポートの審査に合格することです。なお40単位には、必須の技術経営講究4単位を含む専攻科目を22単位以上、他専門科目を4単位以上、大学院教養・共通科目を2単位以上（社会人学生を除く）、含んでいる必要があります。

## 履修科目の認定制度

本学に入学する前に大学院において修得した授業科目の単位を、本学における授業科目の履修により修得したものとして認定することができ、修了必要単位に含めることができます。但し、認定は15単位を上限とします。

## 最短1年での短縮修了について

履修科目の認定制度を利用すると、最短1年での短縮修了が認められます。例えば、大学院における既修得科目14単位の認定を受けた場合、1年間で26単位を修得し、プロジェクトレポートの審査に合格するれば、1年での短縮修了が認められます。

また、社会人であって、1年間で40単位を習得することができ、その成績が優秀である場合、プロジェクトレポートの審査に合格すれば、特例適用による1年間での修了が認められます。

## 履修モデル

技術経営専攻では、全学支援の体制のもとで学生一人一人が自分の関心・目的に応じてアラカルト的に履修メニューを選択することができ、希望する特定の技術科目や知的財産マネジメント・金融工学の分野を集中・選択的に学習することが可能です。

### （1）技術経営を総合的に学びたい場合

| 学年＼科目 | | 技術経営戦略科目群 | 知的財産・ファイナンス・情報サービスイノベーション科目群 | 演習・ゼミ・インターンシップ プロジェクト研究 | 他専門科目 大学院教養・共通科目群 | 単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 前期 | イノベーション論[2]<br>経営者論セミナー[2] | IPマネジメント[2]<br>サービス科学基礎[2]<br>ネット社会のビジネスモデル[2] | 技術経営講究第一[1] | | 11 |
| | 後期 | R&D戦略[2]<br>技術組織論[2]<br>イノベーションのための知識工学[2] | イノベーションと標準化[2]<br>R&D戦略と知識財産戦略[2]<br>デジタル時代の知的財産戦略[1] | 技術経営講究第二[1]<br>リサーチ・リテラシー演習[2] | | 14 |
| 2 | 前期 | 企業戦略とイノベーション[2]<br>イノベーションと産官学連携[2]<br>コンピテンシー・ディベロップメント[2]<br>技術経営情報分析[2]<br>経営の歴史と理念[2] | | 技術経営講究第三[1]<br>プロジェクト研究 | 事業創出論[2] | 13 |
| | 後期 | 企業実践セミナー[2] | 企業における知的財産活動[2] | 技術経営講究第四[1]<br>プロジェクト研究 | ベンチャービジネス特論[2] | 7 |
| 合計 | | 22 | 13 | 6 | 4 | 45 |

[ ]は履修単位数

Aさん
ソフトウェア製品の価値を最大化するためのプロセスや企業戦略に興味を持っており、技術経営戦略の科目を主として、他に情報・サービスイノベーションや知的財産関連の科目を履修しています。
すでにある理論やテクニックを学ぶだけでなく、受講者それぞれに応用を求める授業が多いため、考える力と粘り強さが鍛えられます。また、自ら研究し新しいメカニズムを見出していく訓練も積むことができ、修了した後も継続して効果を得られる、貴重な自己投資の機会と感じています。

### （2）情報・サービスイノベーション分野を核として学びたい場合

| 学年＼科目 | | 技術経営戦略科目群 | 知的財産・ファイナンス・情報サービスイノベーション科目群 | 演習・ゼミ・インターンシップ プロジェクト研究 | 他専門科目 大学院教養・共通科目群 | 単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 前期 | 経営者論セミナー[2]<br>イノベーション論[2] | セキュリティマネジメント[2]<br>サービス科学基礎学[2] | 技術経営講究第一[1]<br>リサーチ・リテラシー演習[2] | インターネットインフラ特論[2] | 13 |
| | 後期 | 技術組織論[2]<br>R&D戦略[2] | テレワーク概論[2]<br>組織戦略とICT[2]<br>コーポレートファイナンス[2] | 技術経営講究第二[1] | 先端技術とイノベーション[2] | 13 |
| 2 | 前期 | 技術経営情報分析[2] | ネット社会のビジネスモデル[2]<br>知的財産権法[2] | 技術経営講究第三[1]<br>プロジェクト研究 | | 7 |
| | 後期 | 技術者倫理とリスク管理[2] | サービスイノベーション論[2]<br>サービス・イノベーション概論[2] | 技術経営講究第四[1]<br>プロジェクト研究 | ベンチャービジネス特論[2] | 9 |
| 合計 | | 12 | 18 | 6 | 6 | 42 |

[ ]は履修単位数

Bさん
システムインテグレータとしてソフトウェアの開発を行っています。企業がもつ技術力を効率的にビジネスに活かし、社会に還元していくための方法論を体系的に学びたいと思い門を叩きました。
講義は平日の夕方～夜間や土曜日が中心で、この他に集中講義などもあり、社会人学生が履修しやすいように配慮されています。経験豊富な教員、様々なバックグラウンドを持つ社会人学生、フルタイム学生に囲まれ、日々刺激的な学生生活を過ごしています。

# 各自の将来像に合わせたカスタマイズ履修メニュー

## （3）知的財産マネジメントの専門家を目指す場合

| 学年＼科目 | | 技術経営戦略科目群 | 知的財産・ファイナンス・情報サービスイノベーション科目群 | 演習・ゼミ・インターンシップ プロジェクト研究 | 他専門科目 大学院教養・共通科目群 | 単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 前期 | 技術経営概論[2]<br>イノベーションと産学連携[2]<br>コンピテンシー・ディベロップメント[2]<br>食ビジネス創成論[2] | IPマネジメント[2]<br>知的財産権法[2]<br>実践知的財産保護[2] | 技術経営講究第一[1] | 公共空間デザイン特論[2] | 17 |
| | 後期 | R&D戦略[2]<br>技術者倫理とリスク管理[2] | R&D戦略と知的財産戦略[2]<br>ライフサイエンス知財と国際制度[2]<br>組織戦略とICT[2]<br>イノベーションと標準化[2] | 技術経営講究第二[1] | 分野横断の最先端[2]<br>先端技術とイノベーション[2] | 17 |
| 2 | 前期 | イノベーション論[2]<br>経営者論セミナー[2] | 知的財産侵害実務[2] | 技術経営講究第三[1]<br>プロジェクト研究 | | 7 |
| | 後期 | | デジタル時代の知財戦略[1] | 技術経営講究第四[1]<br>プロジェクト研究 | | 2 |
| 合計 | | 16 | 17 | 4 | 6 | 43 |

[ ]は履修単位数

Cさん

私は知的財産の活用や実務に興味があり、知的財産に関連した講義を多く受講しています。知的財産の実務に携わった経験豊富な先生方の講義は非常に興味深いものがあります。

同時に、ディスカッションやグループワークが多いこともカリキュラムの特徴のひとつです。本専攻で学ぶ人は、学生、社会人、留学生などバックグラウンドが多様で、そうした人々との関わりを持ちながら共に学ぶ機会が多くあります。年齢も専攻もキャリアも異なる人々との切磋琢磨を通じ、自分自身の視野を広げていくことができます。

## （4）金融工学についても深い専門知識を学びたい場合

| 学年＼科目 | | 技術経営戦略科目群 | 知的財産・ファイナンス・情報サービスイノベーション科目群 | 演習・ゼミ・インターンシップ プロジェクト研究 | 他専門科目 大学院教養・共通科目群 | 単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 前期 | イノベーション論[2]<br>技術経営概論[2] | 金融工学[2]<br>金融リスク・マネジメント[2]<br>金融リスク管理の最先端[2] | 技術経営講究第一[1] | 日本の近代[1]<br>近代日本の思想と文学[1]<br>*解析概論第一[2]<br>*集合と位相第一[2]<br>*実解析第一[2]<br>*関数解析学[2] | 21 |
| | 後期 | | 計算ファイナンス[2]<br>コーポレートファイナンス[2]<br>金融工学特論1[2] | 技術経営講究第二[1] | *確率論[2]<br>*実解析第二[2] | 11 |
| 2 | 前期 | | ファイナンス応用[2]<br>セキュリティマネジメント[2] | 技術経営講究第三[1]<br>プロジェクト研究 | 年金数理[2] | 7 |
| | 後期 | | | 技術経営講究第四[1]<br>プロジェクト研究 | | 1 |
| 合計 | | 4 | 16 | 4 | 16 | 40 |

[ ]は履修単位数
*印の科目は学部での開講科目。専攻の判断により、学部の単位も大学院の単位として認められる場合があり、この例は認められる場合の履修例。詳細については、指導教員等と相談する必要がある。

Dさん

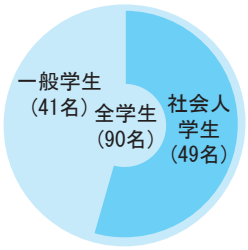
ファイナンスの講義を中心に受講し、基礎となる数学の理論も含めた学習をしています。ファイナンスを扱う講義が豊富に用意されており、多面的に学習を進めることができます。実務家の教員による授業では、学術的な内容だけではなく、実務に沿った幅広いファイナンスの知識が学べます。自分の興味に合わせて勉強ができる学習環境のなか、日々成長を感じています。

技術経営専攻（専門職学位課程：修士）

# 社会人学生と一般学生とのコラボレーション

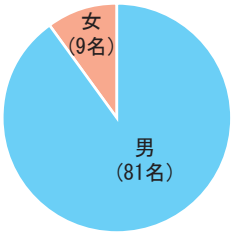
## 在学生の構成比率

| （平成27年2月現在） | |
|---|---|
| 社会人学生 | 49名 |
| 一般学生 | 41名 |
| （上記のうちデュアルディグリー） | 3名 |
| （上記のうち留学生） | 2名 |
| 計 | 90名 |




## 在学生の男女比率

| （平成27年2月現在） | |
|---|---|
| 男 | 81名 |
| 女 | 9名 |
| 計 | 90名 |




## 主な入試日程

8月入試（平成27年10月及び平成28年4月入学）
出願期間：6月中旬
筆答試験：8月下旬
口頭試問：9月上旬
合格発表：9月中旬

12月社会人入試特別選抜試験（平成28年4月入学）
出願期間：11月下旬
試験期日：12月上旬

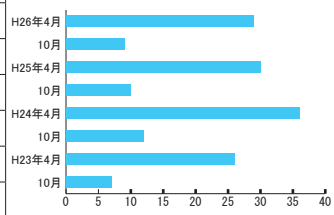
＊上記の日程は目安であり、実際の日程は大学のWebページでご確認ください。

## 入試状況

| 平成26年8月、12月入試（一般、社会人） | | |
|---|---|---|
| | 8月 | 12月 |
| 志願者数 | 39名 | 20名 |
| 合格者数 | 24名 | 17名 |

## 入学者数

| | |
|---|---|
| 平成26年4月 | 29名 |
| 10月 | 9名 |
| 平成25年4月 | 30名 |
| 10月 | 10名 |
| 平成24年4月 | 36名 |
| 10月 | 12名 |
| 平成23年4月 | 26名 |
| 10月 | 7名 |




## 修了生の最近の研究内容

| プロジェクトレポート |
|---|
| Network Structure in Hamburg Aviation Cluster with Degree of Related Technology |
| 不完全情報下において株式投資判断データから作るポートフォリオ |
| 新液晶パネルIGZOに関する特許戦略ー特許情報分析からの思考ー |
| 癌製剤に関する医薬企業の用途発明の研究 |
| 特許情報を用いた国内の家庭用エアコンにおけるダイキン工業とパナソニックの技術動向比較 |
| ナノインプリント技術の製品応用に関する研究 |
| Twitterの投稿数の商品売り上げに対する影響についての研究 |
| 組織内外での共著者ネットワークの技術分野の多様性と研究成果のインパクトの関係　ー豊田中央研究所のR&Dレビューを用いた分析ー |
| 投資に伴う詐欺に対する防衛術 |
| アラミド繊維業界における知財ポートフォリオとノウハウの関係分析 |
| 日本企業の医療機器開発における人的ネットワークの構造分析 |
| 余暇学習のeLearningにおける学習者の学習継続要因に関する調査結果 |
| 日本の半導体製造用石英ガラス製治具製造業の課題と対応策 |
| グローバルERPベンダーの日本における特許出願戦略に関する考察 |
| 移動通信事業における開発形態と開発効率の考察 |
| 次期リリースされるスマートフォンに搭載される新機能の予測についての研究 |
| ｽﾏｰﾄﾌｫﾝｱﾌﾟﾘｹｰｼｮﾝ市場におけるｲﾍﾞﾝﾄﾋｽﾄﾘｰ（生存時間）分析ーApp　Storeを対象としたランキング上位獲得イベントおよびその継続時間に影響を及ぼす要因の探索的分析ー |
| SNS利用パターンとユーザー属性の関係 |
| 非線形期待値に基づいた新しいリスク尺度について |
| Estimation of lead/lag in Mathematical Finance |
| デリバティブの担保付き取引における担保遅延と再構築期間によって発生するリスクの計量化 |
| GF（4）、GF（16）を用いたGeneralized Niederreiter sequenceの生成とデリバティブの価格計算への応用 |
| 担保付取引におけるデバリティブのプライシング |
| 管理職を生み出す母集団としての女性就業者に関する考察 |
| 社会企業の類型と役割に関する調査研究 |
| 大学院イノベーションの政策的推進のための制度とマネジメントに関する調査研究 |
| 機能性農産物の輸出拡大のための課題と対応策 |
| 経営資源ベースによる中小企業の経営戦略提案と考察　A－COREを使った競争力の維持と組織の柔軟性の向上に向けての分析 |
| FPGAがエレクトロニクス産業において果たしてきた役割の研究 |
| 商標情報を利用した事業分析および新商品予測に関する考察 |
| スポーツビジネスにおける個体間競争モデルの応用 |
| 機能材料事業におけるコモディティ化回避に関する考察　ー液晶ディスプレイ用偏光板の事例ー |
| クラウドワーカー選定のための発注方法の提案と効果検証 |
| コンサルティングファームの知識創造 |
| 企業群の持つ知識基盤と環境変化対応力の関係についての考察 |
| ホームセキュリティを対象としたホームオートメーションの展開に関する考察 |
| シュミレーションによる破壊的イノベーションの理解 |
| ベンチャー企業のリスクコントロールにおける公認会計士の役割についての考察 |

# イノベーション専攻（博士後期課程）
# 専門領域をリードする人材となるために

## カリキュラム

イノベーション専攻（博士後期課程）では、技術開発や技術経営についての経験が豊富な社会人を主な対象に、イノベーション研究概論やイノベーション講究第一～六を通して指導教員とのゼミ形式の講究を行い、自身がもつ実務経験に基づく学問的な体系化や理論研究を遂行します。

## 基本履修モデル

| | | | |
|---|---|---|---|
| D1 | 講究（ゼミ） | 【入学時】研究計画策定 | ・修士課程向け授業の履修も可能。<br>・研究論文の査読付き学術雑誌への投稿<br>・国内外の研究集会での発表 |
| | 講究（ゼミ） | 【入学後1年以内】中間審査（研究テーマと研究計画の審査を受ける） | |
| D2 | 講究（ゼミ） | | |
| | 講究（ゼミ） | | |
| D3 | 講究（ゼミ） | | |
| | 講究（ゼミ） | 【修了予定約4～5ヶ月前】博士論文ドラフト作成と予備審査 | |
| | | 【修了予定約3ヶ月前】博士論文発表会 | |
| | | 【修了予定約2ヶ月前】最終試験 | |
| | | 博士取得修了 | |

## 修了要件と期間

博士論文を作成し合格することが修了要件となり、博士（技術経営）、博士（工学）、博士（学術）のいずれかの学位を取得できます。

標準修業年限は3年ですが、入学時に既に技術経営に関連した論文等で顕著な業績があり、入学後の学業成績も優秀な場合には短縮修了（最短1年）も可能です。

※毎年3月、6月、9月、12月に修了する機会があります。

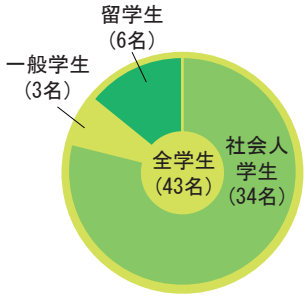
## 短縮履修モデル

（例：入学後1年半で修了する場合）

| | | | |
|---|---|---|---|
| D1 | 講究（ゼミ） | 【入学時】研究計画策定 | ・研究論文の査読付き学術雑誌への投稿<br>・国内外の研究集会での発表 |
| | 講究（ゼミ） | 【入学後3ヶ月】中間審査 | |
| | 講究（ゼミ） | | |
| D2 | 講究（ゼミ） | 【修了予定約4～5ヶ月前】博士論文ドラフト作成と予備審査 | |
| | | 【終了予定約3ヶ月前】博士論文発表会 | |
| | | 【修了予定約2ヶ月前】最終試験 | |
| | | 博士取得修了 | |

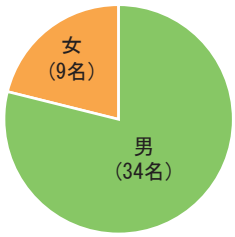
## 在学生の構成比率

| （平成27年2月現在） | |
|---|---|
| 社会人学生 | 34名 |
| 一般学生 | 3名 |
| 留学生 | 6名 |
| 計 | 43名 |




## 在学生の男女比率

| （平成27年2月現在） | |
|---|---|
| 男 | 34名 |
| 女 | 9名 |
| 計 | 43名 |




## 主な入試日程

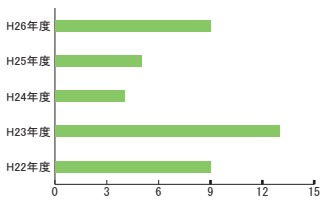
8月入試（平成27年10月入学）
出願期間：7月上旬
口頭試問：8月下旬
合格発表：9月中旬

2月入試（平成27年4月入学）
出願期間：1月中旬
口頭試問：2月中旬

＊上記の日程は目安であり、正確な日程は大学のWebページでご確認ください。

## 入学者数

| | |
|---|---|
| 平成26年度 | 9名 |
| 平成25年度 | 5名 |
| 平成24年度 | 4名 |
| 平成23年度 | 13名 |
| 平成22年度 | 9名 |




## 博士修了者の最近の研究内容

| 博士論文 |
|---|
| Understanding the Dynamics of Emerging Technologies through Knowledge Structures – The Case of Micro/Nanotechnologies |
| Innovation in Korean B2B Mobile Services from the Technological and Service-oriented Perspectives |
| R&D人的資源動員の定量化に基づく企業R&Dマネジメントの研究 |
| Pricing exotic options and American options : an asymptotic expansion approach and symbolic computing |
| e-business とreal-businessにおけるコスト構造と消費者購買行動の比較分析研究 |
| 機能フィルムの研究開発における品質・コスト・生産性マネジメント |
| 原理が製品アーキテクチャーに与える影響－LCDとPDPを事例として－ |
| 特許におけるクレームの構成と競争力との関係性に関する実証研究 |

教員紹介
# 技術経営戦略分野

## 特徴

イノベーション創出サイクルのマネジメントのために、技術経営戦略や組織論、知識工学、戦略的ディベート等の分析・思考・議論するための理論や実践法の習得を目的とした講義・演習に加え、企業で活躍する経営者や実務家による実践的セミナーを開講し提供しています。

## 育てたい人材像

・判断のための論理を事実に基づいて自ら構築し、自らが先頭に立って行動することで困難を打開できる、クリエイティブなリーダー。
・科学・技術知の創造を促し、科学・技術知の社会化・産業化を進めることを通じて、豊かな社会を実現する、イノベーター。
・技術や経営に関する卓越した知を創造し、新規事業やプロジェクトを戦略的に設計・立案し実行していく実務家。
・世界のトップスクールや国際機関で世界に伍して戦い、活躍できる一流の研究者。

## 専任教員

### 宮崎　久美子　教授　（専任教員）

専門分野　技術経営戦略、科学技術政策、ハイテクセクターイノベーションシステムなど
担当科目　技術経営概論，技術戦略論、戦略的ディベートの実践
学位　Ph.D.（サセックス大学SPRU）、MBA（INSEAD）、修士（ケンブリッジ大学）
経歴　東京工業大学工学部教授・社会理工学研究科助教授、NEC

技術をベースとした競争力を構築するための戦略について、企業、産業、あるいは国家を対象とし、国際的な視野に基づいて分析、立案することができる、産、官、学の場で活躍できるリーダーを育成します。

### 辻本　将晴　准教授　（専任教員）

専門分野　経営戦略論、経営組織論
担当科目　企業戦略とイノベーション,技術組織論
学位　博士(政策・メディア)（慶応義塾大学）
経歴　法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科（MBA）准教授

技術経営（イノベーション研究）は長年の蓄積がある学問分野です。近年は特に、科学技術・市場・国際環境の急速かつ複雑な変化に伴い、その重要性が広く認められ研究が進展しています。蓄積された知見を吸収しつつ、個人・企業・政策の課題解決に自ら取り組み、新たな知見を生み出す意欲のある方の参加を期待しています。

### 仙石　慎太郎　准教授　（専任教員）

専門分野　技術経営学、イノベーション経営論、バイオ・ヘルスケア産業論
担当科目　バイオ・ヘルスケア技術と産業システム、事業開発・アントレプレナーシップ
学位　博士（理学）（東京大学）
経歴　京都大学物質―細胞統合システム拠点（WPI-iCeMS）准教授・主任研究者

学術（study）としての技術経営学と、実務（practice）としての技重経営との共進を目指し、バイオ・ヘルスケア分野を中心に、理論と実証に基づく教育・研究および実践展開に取り組んでいます。意欲ある皆さんの参画を歓迎いたします。

### 藤村　修三　教授　（専任教員）

専門分野　イノベーション理論、技術者のキャリア、サイエンス型産業など
担当科目　イノベーション論，R&D戦略
学位　博士(工学)（千葉大学）
経歴　一橋大学イノベーション研究センター客員教授、富士通研究所

マネジメントには自然科学における相対性理論や量子力学のような汎用理論はまだありません。マネジメント上の課題を解決するためには、独自に情報を集め独自の理論を作ることが必要です。そのためのチャレンジの場を提供しています。考えることを楽しみましょう。

### 梶川　裕矢　准教授　（専任教員）

専門分野　技術経営学、科学技術政策学、情報学、サステイナビリティ学、工学
担当科目　技術経営情報分析，イノベーションのための知識工学
学位　博士（工学）（東京大学）
経歴　東京大学大学院工学系研究科特任講師

学生の皆さんと一緒に、世界の技術経営に関する知のフロンティアを開拓し続けると同時に、その成果を現場に還元していきたいと思います。

## 客員教員

### 滝　久雄　教授　（客員教授）

現職　(株)ぐるなび代表取締役会長、(株)NKB取締役社長
学歴　東京工業大学理工学部卒
担当　技術経営全般

### 飯塚　久夫　教授　（客員教授）

現職　(株)ぐるなび　取締役副社長執行役員
学歴　理工学修士（東京工業大学）
担当　技術経営全般

### 鈴木　良隆　教授　（客員教授）

現職　一橋大学名誉教授
学位　経済学修士（一橋大学）
担当科目　経営の歴史と理念

### 中村　昌允　教授　（客員教授）

現職　ナカムラ技術士事務所　所長
学位　博士(工学)（埼玉大学）
担当科目　技術者倫理とリスク管理

## 修了生の主な就職先

ソニー、コニカミノルタ、旭化成、積水化学工業、日東電工、旭硝子、NTTデータ、テルモ、味の素、P＆G、JPモルガン、トーマツ、住友商事、リクルート、アクセンチュア、ブルームバーグジャパン、アイズファクトリー、長瀬産業、ゼンショー、Charles Taylor Plc 、社会システム(株)、オートコムジャパン(株)、日本アイ・ビー・エム(株)、トヨタ自動車(株)、バイエル薬品、リクルートホールディングス、クニエ など

教員紹介
# 知的財産マネジメント分野

## 特徴

知的財産の創造・保護・活用のプロセスにおける知的財産マネジメントの実践的な知識・スキルが習得できます。先端技術に加えて、技術戦略分野の知識習得によりイノベーションにおける知的財産の意義を理解し、自分で考える能力を身につける教育を目指しています。技術・法律・マネジメントの視点から知的財産のテーマにおいて新たな分野を切り開く挑戦的な研究に取り組んでいます。

## 育てたい人材像

学生は、提供されている実践的な授業科目により知識やスキルを習得し企業において即戦略となることを期待します。企業・官庁などの社会人には、知的財産業務を改めて見直すとともに、技術知識、技術経営の知識の習得と実践的な研究により有用な成果を得て、実際の業務において活用されることを期待しています。いずれも、知財を活用してイノベーションを創出するリーダーや将来CIPOを目指す人材を育成します。

## 専任教員

### 田辺　孝二　教授　（専任教員）

専門分野　標準化戦略、産官学連携

担当科目　イノベーションと標準化、イノベーションと産官学連携、デジタル時代の知財戦略

学位　博士(学術)（東京工業大学）

経歴　経済産業省中国経済産業局長・調査統計部長

企業・地域・国家の競争力の鍵となるイノベーションを、構想する能力(Vision)、不透明な状況の下でチャレンジする能力(Passion)、リーダーとして遂行する能力(Action)の修得を応援します。

### 田中　義敏　教授　（専任教員）

専門分野　知的財産マネジメント、コンピテンシー

担当科目　企業経営における知的財産活動、IPマネジメント、コンピテンシー・ディベロップメント

学位・資格　工学修士(東京工業大学)、弁理士(特定侵害訴訟代理付記登録)

経歴　日本テトラパック(株)人事・総務・法務統括部長、知的財産権部長、特許庁

知的財産を如何に企業経営に取り込むかが、知財立国を目指す我が国の将来、そして皆さん自身の将来にも大きく関わってきます。将来ビジョンに向かって目標を明確に掲げ、今、何をなすべきかを考えて行動する習性を身につけて欲しいと思います。

### 橋本　正洋　教授　（専任教員）

専門分野　イノベーション政策、知財戦略、知財政策、技術経営学

担当科目　デジタル時代の知財戦略、R&D戦略と知的財産戦略

学位　博士（工学）（東京大学）

経歴　経済産業省大学連携推進課長、特許庁審査業務部長、早稲田大学大学院教授

経済産業省、NEDOでイノベーション政策に関わり、MOTを推進してきた経験と、特許庁でデザインブランド戦略を立案執行してきた経験をもとに、イノベーション政策、知財政策とその戦略を核として、日本のMOTを確立していきます。MOTで日本の未来を拓いていきましょう。

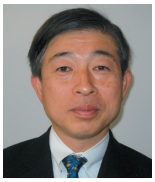
## 客員教員

### 加藤　恒　教授　（客員教授）

現職　三菱電機（株）知的財産渉外部長

学位・資格　工学修士（東京工業大学）、弁理士

担当科目　R&D戦略と知的財産戦略



### 水谷　直樹　教授　（客員教授）

現職　水谷法律特許事務所代表

学歴・資格　早稲田大学法学部卒、東京工業大学工学部卒、弁護士、弁理士

担当科目　知的財産権侵害実務

### 宮垣　聡　教授　（客員教授）

現職　アンダーソン・毛利・友常法律事務所パートナー

学歴・資格　中央大学法学部卒、弁護士、弁理士

担当科目　知的財産権法、実践知的財産保護

## 修了生の主な就職先

キヤノン、トヨタ自動車、日本電気、ソニー、任天堂、カネボウ化粧品、日本精工、日立製作所、三菱電機、マーステック、住友化学、三菱樹脂、中国電力、日亜化学工業、ソフトバンクテレコム、グーグル、特許庁、タイ国特許庁、野村証券、日興アセットマネジメント、アビームコンサルティング、日興シティグループ証券、チュラロンコン大学、国際協力機構、アクセンチュア、横浜市役所、理律法律事務所（台湾）、アイ・エム・エス・ジャパン(株)、(株)日立オートモーティブシステムズ、日揮(株)、(有)あずさ監査法人、プライスウォーターハウスクーパーズ、志賀国際特許事務所、日本放送協会、SAPジャパン、三菱重工業、朝日河川、フォルシア、日本アイ・ビー・エム(株) など

教員紹介

# 情報・サービスイノベーション分野

## 特徴

・教育

サービスイノベーション分野は、サービスサイエンス・情報通信技術・情報セキュリティの3つのエリアで構成されており、新たな知識社会におけるリーダー人材を育成することを目的とした教育を行います。

・研究

エネルギー、環境、交通、医療、福祉などSocial Service Systemにおける問題解決とイノベーション、企業におけるサービスの研究開発戦略と実践、組織戦略としてのテレワーク、持続可能な地域社会モデル、E-コマースの評価・分析モデル、社会全体の情報セキュリティのレベルを上げるための研究など.

## 育てたい人材像

社会・組織におけるイノベーション・リーダー、問題の解決・発見能力を持った人材、Global で活躍できる人材、成長と持続的世界観のバランス感覚のある人材、情報を守るだけでなく、情報をいかに活用するかといった視点で情報セキュリティを考え,方策を打ち出すことができる人材.

## 専任教員

### 比嘉　邦彦　教授　(専任教員)

専門分野　テレワーク, クラウドソーシング, e-コマース, 組織改革, 地域活性化など

担当科目　ネット社会のビジネスモデル、組織戦略とICT

学位　Ph.D.(アリゾナ大学)

経歴　東京工業大学理財工学センター教授、香港科学技術大学助教授

技術経営によるメリットを最大限に活かし、イノベーションが継続して起こるような組織になるためには、組織革新がキーポイントになります。その様な組織革新のためのモデル、および、支援ツールの構築と実現を目指しています。

### 日高　一義　教授　(専任教員)

専門分野　サービスサイエンス、オペレーションズ・リサーチ、研究開発マネジメント

担当科目　サービス・イノベーション論、サービス科学基礎学

学位　博士(理学)(早稲田大学)、理学修士(東京工業大学)

経歴　北陸先端科学技術大学教授、日本アイ・ビー・エム(株)東京基礎研究所研究部長

サービスを科学する対象としてとらえ、その生産性と質を向上させ、イノベーションを実現する為の「サービス科学(サイエンス)」を確立することを通し、次の時代の社会・経済の発展を皆で実現しましょう。

### 尾形　わかは　教授　(専任教員)

専門分野　情報セキュリティ、暗号理論

担当科目　セキュリティマネジメント、リサーチ・リテラシー演習

学位　博士(工学)(東京工業大学)

経歴　東京工業大学理財工学センター助教授

企業における情報セキュリティの重要性は言うまでもなく、今や情報セキュリティが新たなビジネスチャンスとなる時代です。情報セキュリティを身につけることによって、新たなビジネスモデルを生み出せる人材を育成します。

## 客員教員

### 岩野　和生　教授　(客員教授)

現職　三菱商事(株)顧問

学位　Ph.D.(プリンストン大学)

担当　サービスイノベーション全般

### 佐堀　大輔　教授　(客員教授)

現職　キヤノン技術情報サービス(株)技術情報分析部担当部長

学位　博士(学術)(東京工業大学)

担当科目　テレワーク概論、リサーチリテラシー

## 修了生の主な就職先

富士通、三菱総合研究所、アクセンチュア、シービー・リチャードエリス、サイバーエージェント、オイシックス、サイジニア(創業)、東京理科大学、グーグル(株)、アルパイン(株)、マーバルパートナーズ など

教員紹介

# ファイナンス分野

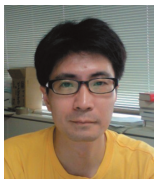
## 特徴

数理ファイナンス/金融工学の理論の修得・開発を目指しています。特に、金融商品の適正評価および金融・保険リスク管理を主たるテーマとして数学的な立場から教育・研究を行っています。

## 育てたい人材像

確率解析や数値解析を修得し、数理ファイナンス/金融工学の高度な専門家として企業等において活躍できる人材の育成を目指しています。

## 専任教員



### 二宮　祥一　教授　（専任教員）

専門分野　数理ファイナンス、確率論

担当科目　金融工学、ファイナンス応用

学位　東京大学理学部数学科卒業、東京大学大学院理学系研究科修士課程修了、東京大学大学院数理科学研究科博士課程修了（博士: 数理科学）

経歴　日本IBM東京基礎研究所、東京工業大学理財工学研究センター助教授を経て現職

数理ファイナンス/金融工学の知識を駆使して、デリバティブの価格付けやリスク管理に携わる、Quantsと呼ばれる新しい数理専門職が非常に重要になっています。Quants、あるいはこの分野の研究者の養成をしたいと思っています。

### 中野　張　准教授　（専任教員）

専門分野　数理ファイナンス、確率論

担当科目　コーポレート・ファイナンス、金融リスク・マネジメント

学位　北海道大学大学院理学研究科博士課程修了（博士: 理学）

経歴　日本学術振興会特別研究員（PD）、大阪大学金融・保険教育研究センター特任助手、科学技術振興機構さきがけ研究者を経て現職

近年の数理ファイナンスは、金融商品の価格付けの理論にとどまらず、より広い意味でのリスクを扱う学問として発展してきています。この分野の基礎理論の習得により、企業における様々なリスク管理の問題に対して数理的にアプローチできる人材の育成を目指します。

## 客員教員

### 森本　祐司　教授　（客員教授）

職歴　東京海上火災保険(株)、日本銀行金融研究所、モルガン・スタンレー証券会社、インテグレイテイド・ファイナンス証券株式会社等を経てキャピタスコンサルティング株式会社代表取締役

学位　東京大学理学部数学科卒業、マサチューセッツ工科大学経営大学院修了（経営学修士）

担当科目　金融リスク管理の最先端

### 深谷　竜司　教授　（客員教授）

職歴　第一生命保険相互会社、みずほ第一フィナンシャルテクノロジー、DIAMアセットマネジメント、日本郵政公社、かんぽ生命を経て第一生命保険株式会社経営企画部部長。

学位　東京大学理学部数学科卒業、スタンフォード大学工学系大学院経済システム工学専攻修士課程、東京大学大学院数理科学研究科博士課程修了（博士：数理科学）

担当科目　国際投資戦略

### 稲垣　誠一　教授　（客員教授）

職歴　厚生省、United Nations Statistical Institute for Asia and the Pacific, Lecture、年金シニアプラン総合研究機構審議役、一橋大学経済研究所教授、株式会社シーエーシー常勤顧問

学位　名古屋大学理学部卒業、東京国際大学大学院経済学研究科博士課程修了（博士：経済学）

担当科目　金融工学特論 I

## 修了生の主な就職先

日本銀行、ゴールドマンサックス、JPモルガンアセットマネジメント、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、東京三菱UFJ銀行、UBS証券、みずほ第一フィナンシャルテクノロジー、みずほ銀行、かんぽ生命、PwCアドバイザリー、三菱総合研究所、中部電力、マッキンゼー・アンド・カンパニー、ゆうちょ銀行、ENF　Ltd.、クォンツ・リサーチ、PNBパリバ証券、新日鉄住金ソリューションズ、大和証券投資信託委託、東芝医療情報システムズ、光通信 など

# 協力講座教員・兼担教員・寄附講座

## 協力講座教員（技術経営専攻）

| 教員名 | 職名 | 所属 | 専門分野 |
|---|---|---|---|
| 岡　眞 | 教授 | 理工学研究科 基礎物理学専攻 | 原子核・ハドロン物理理論（強い相互作用、エキゾチックハドロン、ストレンジネス核物理 |
| 大友　明 | 教授 | 理工学研究科 応用化学専攻 | 無機固体化学、酸化物エレクトロニクス、界面電子物性 |
| 岡崎　健 | 教授 | 理工学研究科 機械制御システム専攻 | エネルギー高効率利用、地球環境保全、プラズマ化学反応、燃料電池、水素エネルギー、石炭、バイオマス |
| 奥富　正敏 | 教授 | 理工学研究科 機械制御システム専攻 | コンピュータビジョン、画像処理、画像計測 |
| 平井　秀一郎 | 教授 | 理工学研究科 機械制御システム専攻 | CO2地球温暖化対策技術、燃料電池の計測・高性能化技術開発、熱流体のレーザー・MRI計測とシミュレーション、CO2地中隔離制御技術 |
| 赤木　泰文 | 教授 | 理工学研究科 電気電子工学専攻 | パワーエレクトロニクス、電力工学 |
| 小長井　誠 | 教授 | 理工学研究科 電子物理工学専攻 | 半導体物性、太陽電池 |
| 中村　聡 | 教授 | 生命理工学研究科 生物プロセス専攻 | タンパク質工学、遺伝子工学、進化分子工学、極限環境微生物、極限酵素、ゲノム解析とゲノム情報の利用、タンパク質の極限環境適応機構 |
| 菅野 了次 | 教授 | 総合理工学研究科 物質電子化学専攻 | 固体化学、固体電気化学、エネルギー変換材料の創製・物質設計、リチウム電池、燃料電池 |
| 青木　尊之 | 教授 | 総合理工学研究科 創造エネルギー専攻 | 大規模多相流シミュレーション、GPUコンピューティング、大気シミュレーション、災害シミュレーション |
| 圓川　隆夫 | 教授 | 社会理工学研究科 経営工学専攻 | 生産管理、品質管理、SCM |
| 武藤　滋夫 | 教授 | 社会理工学研究科 社会工学専攻 | ゲーム理論、オペレーションズ・リサーチ、意思決定と情報 |

## 兼担教員

| 教員名 | 職名 | 所属 | 専門分野 |
|---|---|---|---|
| 室田　真男 | 教授 | 社会理工学研究科 人間行動システム専攻 | 教育工学、教育・学習システム |
| 中丸　麻由子 | 准教授 | 社会理工学研究科 価値システム専攻 | 社会シミュレーション、人間行動進化学、数理生物学 |
| 猪原　健弘 | 教授 | 社会理工学研究科 価値システム専攻 | 社会モデリング、意思決定 |
| 木嶋　恭一 | 教授 | 社会理工学研究科 価値システム専攻 | 意思決定システム科学、システムマネジメント |
| 後藤　美香 | 教授 | 社会理工学研究科 価値システム専攻 | 経済学、生産性分析、経営効率性分析、エネルギー産業論 |
| 池上　雅子 | 教授 | 社会理工学研究科 価値システム専攻 | 安全保障論、核不拡散・軍縮軍備管理、核政策と核セキュリティ、紛争管理・紛争予防、科学技術政策分析 |
| 水野　眞治 | 教授 | 社会理工学研究科 経営工学専攻 | オペレーションズ・リサーチ、金融工学、数値的最適化 |
| 妹尾　大 | 准教授 | 社会理工学研究科 経営工学専攻 | 経営組織論、経営戦略論、知識・情報システム |
| 西條　美紀 | 教授 | 留学生センター | 社会言語学、科学技術コミュニケーション、科学技術リテラシー |

## 寄附講座

### 名称

東京工業大学創立130周年記念
「ぐるなび」食の未来創成寄附講座

### 設置期間

平成２２年１０月～平成２８年９月（６年間）

### 目的

滝久雄氏（株式会社ぐるなび代表取締役会長）および株式会社ぐるなびからの寄附により設立された寄附講座です。「日本の『食』の知恵を世界のものに」を合い言葉に、食を起点とした新しいビジネスの創出に貢献するとともに、食に係わる諸課題をグローバルな視点で提案・解決できる人材の育成を目指しています。

### 活動

食・農・水産分野でのイノベーション、食文化、食ビジネス等の観点から調査・研究を行っています。学内外の研究者、経営者、政策担当者等を含む産・学・官の幅広い分野の方々とネットワークを築き、「知の共有」から新たな価値の創造を目指していきます。大学院科目として「食ビジネス創成論」、「食の未来と技術」、学部科目として「食料生産と未来技術」を開講しています。公開講義やセミナーを定期的に開催するとともに、食文化に関する共同研究を行い、食のハラール性に関する国際シンポジウムを開催しています。

### 寄附講座教員

**髙井　陸雄　特任教授**

専門分野　食品生産システム、食品工学、食品冷凍学、安全工学
学位　工学博士（東京大学）
経歴　前東京海洋大学学長

「伝統」を科学し産業の土俵に載せることは楽しそうであり、難しいかもしれません。そこには人の知恵が詰まっているからです。「食」の技術研究の面白さはこんなところにあるのかもしれません。

**嘉多山　茂　特任教授**

専門分野　農業政策、農業・食品産業の研究開発戦略
経歴　前農林水産省消費・安全局農産安全管理課長、消費・安全政策課長、総務課長

安全で、美味しい食品を安定的に食卓へ届けるためには、農畜水産物の生産・食品加工・食品流通などフードチェーンの関係者が食品の安全性向上に積極的に取り組むとともに、フードチェーン関係者のみならず、情報、機械、応用化学、エネルギーなど幅広い分野の成果も活用し、新たな価値・市場を創造していくことが求められています。「農」や「食」に関心のある方の幅広い参加を期待しています。

**阿良田　麻里子　特任講師**

専門分野　文化人類学、言語人類学、食文化研究、地域研究（インドネシア）
学位　言語学修士（東京外国語大学）、博士（文学）（総合研究大学院大学）
経歴　摂南大学・同志社女子大学・武庫川女子大学・京都産業大学等非常勤講師、国立民族学博物館外来研究員を経て現職。

生活文化の中には、あえて説明するまでもないほど当たり前に感じられる事柄でも、異文化を背景にもつ人にとっては理解に苦しむことが多々あります。多文化共生時代を生き抜くために、自分の「当たり前」を疑ってみる柔軟な姿勢を身につけましょう。

キャリアアップMOTプログラム（CUMOT）

# 働きながらMOTを学び、キャリアに活かす

## キャリアアップMOTとは

- 社会人教育院のプログラムとして、本研究科が実施するMOT（技術経営）に関するノンディグリー・サーティフィケート・プログラムです。
- 平日夜、週1回の通学など、社会人の方が働きながらMOTの学びを通じて、キャリア形成を図ることを支援する取り組みです。多様な業界・業種から、経営者、マネージャー、若手など多くの社会人が受講しています。
- 学位を得ることができるディグリー・プログラムではなく、プログラム受講の修了を認定するサーティフィケート・プログラムです。修了者にはイノベーションマネジメント研究科長名の「修了証書」を交付いたします。修了評価は、出席状況を含め、コースごとに行います。
- 平日の夜を中心にMOTに関連する各コースを開催しています。受講場所はいずれも田町キャンパスです。

## プログラムの位置づけ

- 次世代の企業経営を担う人材など、産業界で活躍する人々が必要とする大学院レベルのMOTに関するコースを提供します。
- イノベーションマネジメント研究科のMOT教育のノウハウを活かし、現場・実践を意識したカリキュラム（実務経験を有する講師陣、シミュレーション教材、ケース教材等）、少人数制による質の高い講義を提供し、受講生同士が学び合うグループ課題にも取り組んでいただきます。
- 講師陣は、本研究科の教員に加え、外部から各分野の最前線で活躍する方を講師として招聘しています。

## コースの紹介

コースと実績（受講者数）は次の通りです（平成27年3月現在）。 1回2時間または1日単位の構成です。

| コース名 | 受講対象者 | 概要 | 26年度実績 |
|---|---|---|---|
| エッセンシャルMOTコース（1年） 全36回 | 次世代の企業経営を担う人材（若手後継者、技術系管理職、経営企画職、ベンチャー企業経営者、等） | 「イノベーション論」「企業戦略とイノベーション」など、MOTのエッセンス（11科目）を1年間に渡って学ぶコースです。 | 20名 |
| エッセンシャルMOT秋季コース（半年） 全24回 | 次世代の企業経営を担う人材（若手後継者、技術系管理職、経営企画職、ベンチャー企業経営者、等） | 「エッセンシャルMOT」のカリキュラムをベースとして、半年間で学ぶことができるコースです。 | 20名 |
| 知的財産戦略コース（4ヶ月） 全14回 | 企業の知的財産のマネジメントや活用に関わる人材（知財部門担当、特許事務所、コンサルタント等） | 知的財産と経営との関係性を理解しつつ、企業等の競争力強化に貢献できる知的財産戦略をデザインし、マネジメントできる力を養うことを目指すコースです。 | 23名 |
| サービスイノベーション集中コース（1ヶ月） 全8回 | 次世代の企業経営を担う人材、組織・個人にとって価値のある新たなサービス（無形財）を創出することが求められる人材 | 「サービスイノベーション論」「ICTを活用した経営戦略」など、サービスイノベーションの実現に必要なエッセンスを短期間で集中的に学びます。 | 10名 |
| エグゼクティブMOT集中セミナー（4日間） | イノベーションの推進に責任のある経営者や企業幹部の方々、MOTを短期間で学びたい幹部の方々 | 経営者や技術企画担当幹部などが、国際的に著名なMOT教育の第一人者からMOTの本質を集中的に学ぶセミナーです。 | 19名 |
| ストラテジックSCMコース 春期・秋期（5ヶ月） 全18回 | 企業の経営企画を担当する経営幹部・スタッフ、サプライチェーンの計画・設計・管理・運営を担う人材 | 幅広い経営的な視点からSCM（サプライチェーンマネジメント）への理解を深めると共に、経営科学的なアプローチも学ぶコースです。春期と秋期の年2回開催しています。 | 各 24名 |

## 受講された方の声

〇自らがイノベーションを考えなければならないということを肌身で感じられた（エッセンシャルMOT）

〇回数を重ねるにつれて講義が面白くなってきました。東京工業大学ならではの先端的なマネジメントの知識を習得することができました（エッセンシャルMOT秋季）

〇企業において、日本において、知的財産の創造、保護活用が重要であること、各部署、各機関との連携が大切であることの理解を深めました。また、学ぶことの楽しさ、大切さに気付かされました。今後も学びの継続とアウトプットをしていきたいと思います（知的財産戦略）

〇サービスのような無形のものでイノベーションを起こし、価値を生み出していくための気づきが得られた（サービスイノベーション集中）

〇概念論だけでなく、具体論まで踏み込んで教えていただけたことで、企業現場での実践につなげることができると思いました（エグゼクティブMOT集中セミナー）

〇様々な講師の方からの講義や具体的な事例に関する議論により、SCMに対する知識や考え方、あるいは第三者への分かりやすい伝え方について、理解を深めることができた（ストラテジックSCM）

## キャリアアップMOT担当教員

古俣 升雄 特任助教

専門分野 キャリアデザイン、社会人学習

学位 経営学修士（キャリアデザイン学）（法政大学）

## お問い合わせ

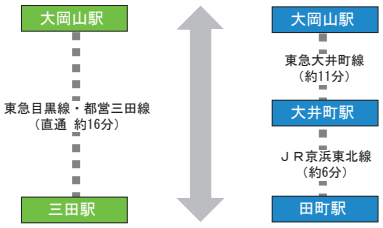
お問い合わせ先 cumot-info@mot.titech.ac.jp

詳細・最新情報は、専用Webサイトをご参照ください。 http://www.mot.titech.ac.jp/cumot/

## ■大岡山キャンパス

所在地：〒152-8550　東京都目黒区大岡山2-12-1
西9号館西棟

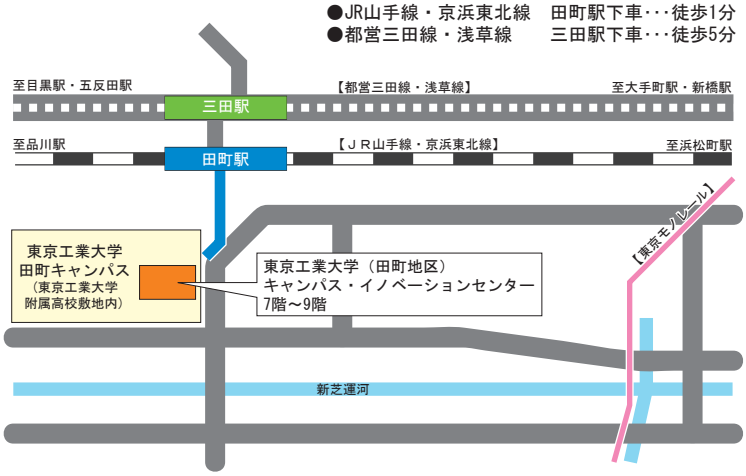
●東急目黒線・大井町線　大岡山駅下車･･･徒歩3分




## ■田町キャンパス

所在地：〒108-0023　東京都港区芝浦3-3-6
キャンパス・イノベーションセンター

●JR山手線・京浜東北線　田町駅下車･･･徒歩1分
●都営三田線・浅草線　三田駅下車･･･徒歩5分





TOKYO TECH
Pursuing Excellence

国立大学法人 東京工業大学
大学院イノベーションマネジメント研究科

Tel: 03-3454-8912（田町）　（研究科に関するお問い合わせ）
03-5734-3516（大岡山）
URL: http://www.mot.titech.ac.jp/
E-mail: inquiry@mot.titech.ac.jp



<平成27年2月作成>